

拜城の銅
鑛

十日午後三時十二分發、河色爾河(謂上流河)を渡りて、六時三十五分行程五里餘、賽里木(又薩拉木)に達す。此間半は沙磧半は草地往々濕地を交ゆ。人家は附近を合せて九百戸あり。河色爾河は平時水淺くして容易に徒涉し得べきも、出水時は二三日に亘りて行通を遮斷すと。

十一日行程約十里、拜城(バイチヨン)に達す。全路殆んど蔭蔽地とす、路北は間々半沙漠の狀態を爲す處あるも、概ね耕地にして、白楊柳梧桐等多く、道路に並木あるも、塵埃歩に隨ふて起り、濛々漠々、黃雲に駕するの感あり。拜城附近には銅鑛三箇所ありて、往年は政府の所管に係り、毎年十二萬斤を出せしも、今は纏頭の保管する所と爲り、工夫僅に百五十六人、出額年一萬斤内外に過ぎずと。

拜城の市街は天山支脈より發する河流の谷地に位置し、高き臺地上に建て、連り海拔實に三千有餘尺あり、夏期も炎熱甚しからず、人家一千餘戸を有し、内商店は大、小約五十戸あり、拜城縣衙門(縣の管轄總人口三萬九千七百五十人)大糧倉ありて、馬隊一哨屯在す。市外には田家四千餘あり。城東を流る、「エッケン」河(或は銅廠河)は水多からずと雖も、年中絶ゆること無し。當地在住の回部公爵は年俸二百兩、外に

回部公爵
年俸